

**令和4(2022)年度 特定非営利活動法人そよかぜねっと
事業報告
(2022年4月1日～2023年3月31日)**

1. 理事会・通常総会開催

- 第1回理事会 (5/23) 令和3年事業報告・令和3年度決算報告・監事監査報告・令和4年度事業計画(案)・収支予算案・通常総会について
- (1) 通常総会 (6/21) 令和3年度事業・会計報告、監査報告、令和4年度事業計画・予算報告
- (3) 第2回理事会(11/18) 法人定款変更案について・法人中長期計画、方向性、行動計画について
- (4) 第3回理事会(3/14) 令和5年度事業計画(案)・法人定款追記項目案について・インボイス制度対応について・身体拘束適正化のための指針案について・職員昇給について・コロナ感染症5類移行に向けた対応について・物価高騰によるGH食材費の扱いについて

2. 総括

- ・ 利用者の特性に合わせた過ごし方、働き方を考えた提案・提供
- ・ 利用者の立場に立った障害福祉サービスの提供
- ・ 就労支援への取り組み
- ・ 安心安全な生活環境作りと整備
- ・ 剰余金の積み上げ

3. 運営状況

(1)福祉サービス事業

【就労継続支援B型事業】

利用者数

1日平均利用者数：15.6人(3年度：18.2人)

利用者延人数：3,759人(3年度：4,320人)

開所日数

241日(3年度：238日)

評価：○できた △概ねできた ×できなかった

年間計画	取り組み	評価
・作業の統一した方法を確立し、説明の差を生まない、安定した生産性を維持することをめざす。	マニュアルの統一などには至らなかったが、各作業ごとに集まってもらって注意点や生産量について話	△

	し合うことができています。	
・工賃の向上を旨とし、作業開拓・作業賃の上昇交渉などを行う。	現在の作業に追われる形となり、作業開拓・作業賃の上昇交渉には至らなかった。	×
・メンバー向け勉強会などを活用し、自己理解を深める機会をつくる。	3/24にメンバー向け勉強会を開催。16名が参加。社会生活・就労に必要なマナーや知識の研鑽に努めた。	○
・支援計画のアセスメントに職員全員で取り組み、支援の方向性の統一を目指す。	毎月のケース会にて重点的な見守りの必要な方の様子の共有、支援計画対象者の達成状況や今後の目標の設定などを話し合い、一貫性のある支援となるよう努めた。	○
・職業指導員、目標工賃達成指導員、生活支援員の支援の住み分けをおこない、一人一人への支援の責任感を持つ。	各部門ごとにケース会で現状の報告と次月の目標を発信し、部門別支援者にも発信・協力を仰ぐよう努めた。人員の入れ替えなどがあり、未報告の月などもあったことから、達成度は100%には満たなかった。	△

【定着支援事業】

契約者：4名(内1名は2023年2月・2名は2023年3月利用契約)

利用延人数：36名

就労継続率：～1年 100% 1～2年 100% 2～3年 100%

※3年以上の勤務継続で職場への定着した率は62%

評価：○できた △概ねできた ×できなかった

年間計画	取り組み	評価
・当法人事業所卒業の利用者だけでなく、幅広く生活介護や就労継続支援B型事業所からの就労者の利用を受け入れていく。	・コロナ禍以降就職準備のスピードが他事業所含め鈍化。就労定着支援の案内に至らなかった。	×
・就労6か月まで、ジョブコーチの支援を活用する提案を行う。	現在就労している方に対しては、就職時にジョブコーチを提案、活用される	○

<ul style="list-style-type: none"> ・定着支援利用前から、職業指導員が定期的に職場訪問をし、就労継続のサポートを行う。 	<p>に至っている。</p> <p>電話での相談や、利用までの打ち合わせなど、随時対応を行うことができた。</p>	△
<ul style="list-style-type: none"> ・定着支援、支援員の訪問を企業側と調整を行う。 	<p>企業の方にも参加していただけるよう、都度日程の調整を行ったうえで訪問支援ができています。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ・就労パスポートなどを活用し、障害理解・特性理解へつなげる 	<p>活用を積極的に行っているものの、運用方法が定まらず、作成後の更新停滞が課題となっている。</p>	△

【共同生活（グループホーム）事業】

契約者：5名

利用延人数：1,722人（3年度：1,539人）

一日平均利用者数：4.7人（3年度：4.2人）

評価：○できた △概ねできた ×できなかった

年間計画	取り組み	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・職員、利用者で話し合い理解を深めていく 	<p>毎月世話人会議にて、各入居者の課題や達成状況を確認し、支援のズレが起きないように努めた。</p>	△
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の力とスピードに合わせて、生活に必要なこと（洗濯・掃除・時間管理・買い物・通院等）を自分できるようサポートする 	<p>支援計画やメンバー会議での利用者の希望を聞きながら、楽しく共同生活を行えるように入所者・職員ともに話し合いの場を整えた。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ・生活費管理の手助けをおこなう 	<p>家計簿を一緒につけ、残金との誤差がないかを一緒に確認したり、工賃をお預かりしてお小遣いとして日付を決めて渡すなど、お金の使い方が乱雑にならないよう一緒に考える行動を行った。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームでの生活の基盤を整え、健康管理と不安への寄り添いにつとめる 	<p>相談支援事業所のモニタリング、支援計画面談、日々の会話などから困りごとと一緒に考える、通院に同行するなど不安へ</p>	○

<ul style="list-style-type: none"> ・仕事や作業所に通うための生活リズムを整えるとともに、休日が充実して過ごせるようサポートする ・地域行事への参加を一緒に行い、地域の方とのコミュニケーションの機会をもつ ・地域へグループホーム・障害福祉の啓発をおこなう 	<p>できる限り寄り添えるよう努めた。</p> <p>メンバー会議でレクリエーションの話し合いや実行を行った。また、日中一時の活用の提案や外出サポートを行い、休日を楽しんで過ごしてもらるようにした。一人で楽しんで過ごすことが得意でない方もおられ、休日の過ごし方はまだまだ模索が続いている。</p> <p>コロナ禍で行事は縮小されていた。花火大会やハロウィンなど、開催行事には積極的に参加。</p> <p>地域自立支援協議会 暮らし部会に参加。他事業所との交流を積極的に行った。</p>	<p>△</p> <p>△</p> <p>△</p>
---	--	----------------------------

【短期入所（ショートステイ）事業】

契約者： 9名

利用延人数：162人（3年度：200人）

評価：○できた △概ねできた ×できなかった

年間計画	取り組み	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・三木市内外の相談支援事業所と連携して、新規の利用希望者の情報を収集する。 	<p>相談支援事業所などへの短期入所の活用案内を積極的に行った。今後、啓発のすそ野を広げていくことを目指す。</p>	<p>△</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・利用希望者に対しては、事業所の見学を積極的に案内し、利用希望者には速やかに調整会議を行い、受け入れを行っていく。 	<p>問い合わせ5件。見学2件。新規利用者2人。環境・人員を調整し、利用希望者が活用してもらえよう整えた。</p>	<p>○</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・短期入所用の1室を確保する。 	<p>一室を確保し、継続して短期入所利用者を受け入れた。</p>	<p>○</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・短期利用者の満足度向上のため、環境の整備につとめる。 	<p>室内の配置を変更し、洗濯物を干しやすくする・除菌脱臭機設置などを行った。</p>	<p>△</p>

(2) 地域への啓発活動

評価:○できた △概ねできた ×できなかった

年間計画	取り組み	評価
・法人広報誌の「そよかぜねっと通信」、事業所広報誌の「やすらぎニュース」の発行を継続する。	そよかぜねっと通信3回、やすらぎニュース5回の発行を行った。	○
・ホームページのリニューアル及び定期的な見直し・更新を行う。	研修案内の掲示、広報誌などのアップロード、文言の修正などを随時行った。	○
・関係機関、作業委託契約先、利用者就職先などとの連携を図りながら、協力や理解の輪を広げていく。	広報誌や研修会の案内を送付し、継続した情報提供を行った。	○

(3) メンバー・家族への情報提供、啓発活動

評価:○できた △概ねできた ×できなかった

年間計画	取り組み	評価
・電話、面談、手紙、勉強会などを活用し、事業所・家族間の交流や相互理解を深める。	対面での研修会を再開した。また、休憩時間の会話や面談時の相談などから、困りごとを共有できるよう努めた。	○
・WEB 会議などの知識を向上し、活用する。	コロナ感染症の取扱いが変化するとともに、web 会議が減少していったため、学ぶ機会や活用の機会を設けることができなかった。	×
・年1回、家族との交流勉強会を企画、実行する。	今年度は、対面での勉強会を行うことができなかった。次年度の対面開催に向けた準備を行っていく。	×

(4) 衛生管理及び感染症対策について

評価:○できた △概ねできた ×できなかった

年間計画	取り組み	評価
・見守りが必要な対象者にはチェック表を用いて、意識的に保清を保てるよう支援する。	必要な方に対して、個別に保清についての声掛けを行った。改善が見られないケースもあり、支援の方法改善が求められる。	△

・週明けの身だしなみの声掛けを行い意識強化を行う。	週明けごとの声掛けはできていなかった。朝礼などで全体への発信を継続して行った。	△
---------------------------	---	---

(5) 専門性の向上

評価：○できた △概ねできた ×できなかった

年間計画	取り組み	評価
・研修の年間計画を作成し研修を実施する。(通年)	各職種に必要な研修は個別に研修提示を行い、参加を行った。	○
・多くの職員が研修に参加できるよう研修案内を積極的に開示、参加を促す。(通年)	参加してみたい研修には、各職員から積極的な参加希望があり、年間で18回の研修申込、参加となった。反面、人数制限により選考に落ちる研修もあり、学びたいものに全て参加ができたとは言えない状況である。	△
・2事業所合同で事業所内研修を行い交流及び知識の向上につとめる。(年1回)	感染症対策研修を合同で行い、知識の向上だけでなく、2事業所の交流の機会ともなった。	○
・毎月のケース会議にて支援方法の全職員が互いにサポートしながら支援しやすい方法となるよう話し合いを重ねる。(月1回)	毎月全員で集まって話し合う時間を取り、共通理解ができるよう努めた。	○

(6) 支援のための体制づくり

① 職員体制の確立及び充実

ア) 就労継続支援・就労定着支援 職員の配置状況 (3/31 現在)

管理者	1名 (共同生活援助管理者兼務) 北上
サービス管理責任者	1名 犬飼
職業指導員	1名 (就労定着支援員兼務) 井上
目標工賃達成指導員	1名 藤田
生活支援員	1名 岡嶋
就労定着支援員	1名 (職業指導員兼務) 井上

イ) 共同生活援助 職員の配置状況 (3/31 現在)

管理者	1名 (就労継続支援管理者兼務) 北上
-----	---------------------

サービス管理責任者 1名（生活支援員兼務）柴田
 生活支援員 1名（サービス管理責任者兼務）柴田
 世話人 4名（常勤換算 1.3名）
 中井、佐々木、小林、増田

ウ) 異動状況

退職：4/25 目標工賃達成指導員 占部
 8/25 生活支援員 木積

採用：なし

② 職員研修報告

日時	研修内容	主催者	人数
7/18	兵庫県精神医療人権センター記念講演	兵庫県精神医療人権センター	1
8/1・9/27	2022年度障害者虐待対応力向上研修	一般社団法人兵庫県社会福祉士会	2
8/1・10/25	2022年度障害者虐待対応力向上研修	一般社団法人兵庫県社会福祉士会	1
10/5・6	令和4年度兵庫県サービス管理責任者実践研修	福祉のまちづくり研究所	1
11/2	障害のある人が安心して働くための地域の試み	兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会	1
11/22	兵庫県サービス管理責任者等専門コース別研修	一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク	2
12/5	福祉従事者の心構え	特定非営利活動法人はりま総合福祉評価センター	1
12/9	障害者虐待防止に関する研修	三木市地域自立支援協議会	1
12/15	アンガーマネジメントの実際	特定非営利活動法人はりま総合福祉評価センター	1
1/24	農福連携交付金活用セミナー	(株)マイファーム	1
2/13	商品開発の視点で考える工賃向上	兵庫県	1
2/14	全国の好事例から学ぶ工賃向上	兵庫県	1
3/1	兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会 講演会	兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会・兵庫県精神保健福祉センター	1
3/1	インボイス制度セミナー	兵庫県	1
3/4	令和4年度障害者の健康づくり研修	全国障害者総合福祉センター	1
3/11	こころの病家族教室	ひょうかれん	1
3/14	令和4年度兵庫県サービス管理責任者更新研修	福祉のまちづくり研究所	1
3/25	障害児・者とのコミュニケーション支援基礎研修	全国障害者総合福祉センター	1

今年度も職種ごとの目標を定め、積極的に研修への申し込み・参加準備を行った。少しずつ外部研修の開催も戻ってくるとともに、オンラインでの研修の形も増えてきて、

研修参加の選択の幅が広がったと感じる。訪問型・オンライン型どちらでも、積極的に知識向上に向け今後も研鑽に努めていく。

(7) ボランティアの受け入れ

やすらぎ工房内の作業・各種行事支援の為に、延べ69人のボランティアを受け入れ。

(8) 将来的発展に向けて

評価:○できた △概ねできた ×できなかった

年間計画	取り組み	評価
・無償貸与を受けている水道ガス管理棟に関し、定期的な三木市との協議を重ねていく	年に1度、障害福祉課との面談を行い、情報の共有を行っている。	○
・費用支出を見直し、経費の抑制を行い剰余金の積み上げを行っていく。	燃料費の高騰などもあり、経費の費用項目により前年度より大きく上昇したものがあ。日用品は過剰な在庫とならないよう心掛けた。また、休日の新聞の発刊を中止してもらうなど、細かな部分から経費の抑制をできるよう努めた。	×
・必要な修繕や大規模な備品購入を想定し、積み立てと助成金の活用を積極的に行っていく。	木口福祉財団より助成を受け、就労継続支援 B 型事業所内の劣化したエアコンの買い替えを行うことができた。	○
・譲渡のメリット、デメリットを洗い出す	理事会にて継続的な審議を行った。メリットとして、むこう10年ではあるが、建物の損傷に対しては市にて対応をしてもらうことができる。今年度雨漏りの修繕済み。デメリットとしては、建物の老朽化が年毎に進んでいる。	△
・移転のメリットデメリットを洗い出す	移転についての話し合いにまでは至らなかった。	×
・移転と譲渡の双方の強みを比較検討し、双方の費用算出を行う。	比較検討、費用算出にまで至らず、次年度へ持ち越し。	×

4. 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従業者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	就労継続支援B型事業所「やすらぎ工房」の運営	月～金 9:00～ 17:00	法人施設	5名	三木市及び周辺地域で在宅生活をする精神障がい者等 延べ 4,320人	48,889
	就労定着支援事業の運営	月～金 15:00～ 17:00	法人施設 契約者宅 企業	3名	就労定着支援を利用する対象者及び就労先企業の担当者 延べ 36人	
	共同生活援助事業所・短期入所事業所「そよかぜはうす」の運営	月～日 7:00～ 20:00	法人施設	6名	共同生活援助及び短期入所事業を利用する対象者 延べ 1,739人	
精神保健福祉等に関する啓発事業	法人機関紙並びに広報誌の発行	年8回	法人施設	10名	地域住民及び市民、関係機関 延べ 1,000人	
精神障がい者等と地域住民との交流事業	バザー・地域イベントへの参加	年0回	法人施設 地域	0名	地域で生活する精神障害者等 延べ 0人	